

令和5年度 学校園評価シート

学校園名

加古川市立川西こども園

1 園教育・保育目標 「心豊かに、のびのびと素直に表現する子供」―遊びから学び、心と体ははずませて―

2 園指導目標 (1)自分らしさを発揮し、素直に表現する子供 (2) 友達を大切にし、思いを共有して遊ぶ子供 (3) 最後まで粘り強く取り組む子供

<点検結果評定基準> A: 達成している B: まあまあ達成している C: あまり達成していない D: 達成していない

I 経営の重点に関すること

重点目標	実践目標	評価項目	評価	○取り組み状況 ▲課題 ◎改善策
1 自分らしさを発揮し、素直に表現する子供	一人一人の特性や課題をとらえ、望ましい人間形成につながるようにつなげるように努める。	園児の表情、しぐさ、言葉などから内面理解し、園児が達成感・満足感が得られる適切な言葉かけや対応、環境構成はできたか。	B	○一人一人の個人目標を計画し、何を育てたいのかという「ねらい」をもちながら丁寧に関わる。 ○クラスタイムでテーマに沿った内容について話し合いをする場合は、タブレットを使用するなど必要に応じてインターネットを活用し教材研究をしている。 ▲個々の園児の読み取りや援助に対し、保育教諭同士の話し合う時間が取りにくい。 ◎一人一人をよく観察し、一日の様子や保育教諭の関わりを振り返り、具体的な援助を考える。 ◎職員会議の中で「子供が輝いていたこと」「子供のよいところ」を職員同士で伝え合い、更に園全体で個々の成長を見守りサポートができるようにしていく。
		園児がのびのびと発達に応じた方法で表現できるように教材研究をしたか。	B	
		園児の表現しようとする意欲や態度を記録し、次の活動に生かすことができたか。	B	
2 友達を大切にし思いを共有して遊ぶ子供	友達と心を通わせながら、人間尊重を基礎にした温かいふれあいのある生活を送る。	園児が安心感をもって登園し、身近な人と親しみを持てるような援助を心がけたか。	B	○園児自身が自分のことが好きになれるように、認め言葉を掛けるように心掛けている。そこから、いろいろな友達のよい面に気が付くようになっていく。 ○クラスに入ることで職員が増え、特別支援が必要な園児や、個別の関わりが必要な園児に対して細やかな援助ができるようになった。 ▲異年齢が園庭に出て遊ぶ時間は増えたが、クラス単位での活動が主であった。 ▲担任一人でクラス全体をまとめようとする、一人一人と丁寧に関わりがもたれにくくなる。 ◎園児の気持ちに寄り添い、保育教諭自身が心にゆとりをもちながら園児と関わっていく（不適切な保育に繋がらないように）。 ◎好きな遊びの時間などに、遊びを教え合ったり、一緒に遊んだりする時間を設ける。担任がきっかけ作りをしたり異年齢同士が遊べる場を設ける。
		保育教諭や友達と一緒にいることや、活動することの楽しさを感じられるような関わりはできたか。	B	
		園児の心の読み取りを意識しながら保育をし、園児と園児の心をつなぐ援助を心がけたか。	B	

3 最後まで粘り強く取り組む子供	自分で目標を決め最後まで諦めずに取り組める援助と環境構成を整える。	遊びの中で、工夫したり協力したりできる環境や保育教諭の援助を意図的に考えて教育・保育を提供できたか。	B	<p>○園児が自分から「やってみたい」と思うような遊びや環境を整え、一人一人を認める言葉掛けを行った。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と照らし合わせながら保育を振り返っている。</p> <p>○簡単に答えを出さず、方法やヒントを出しながら、「こうしたい」「もう1回」など園児自身が繰り返したり試したりすることで、粘り強く取り組めるような言葉掛けや環境整えている。</p> <p>▲園児とじっくり関わる時間を大切に、様々な保育を見守ったり支えたりする時間を確保する。</p> <p>◎園児が具体的なイメージをもち、自分で遊びをクリエイトしながら成功体験を経験できるような視覚的環境を整える。</p> <p>◎環境を整え、園児一人一人が主体性をもって遊べるようする。</p>
		一人一人の興味や発達を考慮した遊びを提供するための教材研究を心がけたか。	B	
		最後まで諦めずに取り組む意欲や態度をはぐくむための援助と環境構成を整えることができたか。	B	

II 施設の機能に関わること

分野	項目	評価	○取り組み状況 ◎改善策
教育及び保育の全体的な計画に関すること	園児理解とその対応	A	<p>○未満児は月齢で成長の幅が広いので、集中できる時間に差があり、無理強いしない内容にクラス活動を工夫している。</p> <p>○園児と関わる中で特徴を捉え、一人一人の観察を意識して行っている。</p> <p>▲フリーの立場では、各クラスに入る機会が少なかった。</p> <p>◎子供たちの姿を見逃さないように、触れあう機会を多く設ける。</p>
家庭との連携・協力に関すること	保護者との相互理解・対応等	A	<p>○早朝延長利用の園児の保護者と直接話をする機会は少ないが、ホワイトボードで日々の様子を伝えたり、降園時に会った時には必ず園の様子を伝えるようにしている。</p> <p>▲1年間の振り返りとして保護者にアンケートを記入してもらったが、行事についての関心が薄い方もおられ、子供の成長を言葉で伝え合い共に喜び合える機会を意識的に作っていくことが必要。</p> <p>◎クラスで作成したドキュメンテーションを喜んでもらっているが、キッズリーでクラス活動の写真を手軽に配信できたら、さらに理解していただけるのではないかな。</p>
地域との連携に関すること	地域・自然等の関わり	B	<p>○地域の方と夏野菜を育てたり、祭りやその他の行事での交流をすることで参加できた。</p> <p>○園で飼育している小動物のお世話をしながら、触れて感じる経験をすることで心の育ちに繋がった。</p> <p>◎心にゆとりをもち、飼育動物や栽培物に対して発達に沿って「命」と向き合う機会を大切にしていこう。</p>

小学校との連携に関すること	小学校との円滑な接続	小学校教育への円滑な接続に向けた取組を行っているか。	B	<p>○小学校教諭と話をしたり、授業を見学したりする中で、園児の姿を共有している。今後も続けていきたい。</p> <p>○8校園長会やユニット活動を通して、学校園の取り組みについて情報交換し、特に就学児については引き継ぎを含めた情報を伝えている。</p> <p>◎学校園がそれぞれ行っている取り組みについて実際に見る機会を作ることで、教育や保育の内容について考える機会をもちたい。</p>
安全対策に関すること	事故・災害・感染症対策	感染症等のマニュアルをもとに、避難訓練・事故防止・安全対策を行っているか。	B	<p>○事件事故のニュースの中で必要に感じたものは、すぐに子供たちに伝えるようにした。また、職員間で自園のこととして話し合ったり共通理解するようにした。</p> <p>○朝の9時までに欠の出欠の連絡のない家庭には必ず確認をするようにした。</p> <p>◎避難訓練は火災だけでなく、地震に対しても具体的にどう身を守るのか、どこに避難するのか等、職員全体で考え実践的な訓練を増やしていく。</p> <p>◎感染症対策について、マニュアルを徹底しながら感染が広がらないように気をつける。</p>

Ⅲ関係者評価

<p>I 経営の重点に関すること</p> <p>II 施設の機能に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用しているクラスがあるので、保育の中で教材としてこれから必要になるなら、各クラスにタブレットが必要なのではないか。また、「園のお知らせ」や「クラスだより」は携帯に発信しているが、日頃のクラス活動の写真を手軽に配信できたら今の保護者の方のスタイルに合っていると思うし、より園運営への理解が深まるのではないか。 ・異年齢児での触れ合いはどんどん増やしていき元気に園生活が送れるように配慮してもらいたい。 ・不適切な保育に関しては、人員不足（時間帯により）と直接関係はないと思うが、先生たちも心にゆとりをもちながら子供たちに寄り添っていただきたい。また、「幼児期に育てたい10の姿」は以前から聞いており、これからも「ねらい」をもちながら継続してほしいと思う。 ・PTAから保護者会への移行は働いている保護者の方が増えてきていることを考えると仕方がないと思われる。出張などの負担が減るのは小さい子供がいる家庭は助かると思う。 	A
--	---	---